

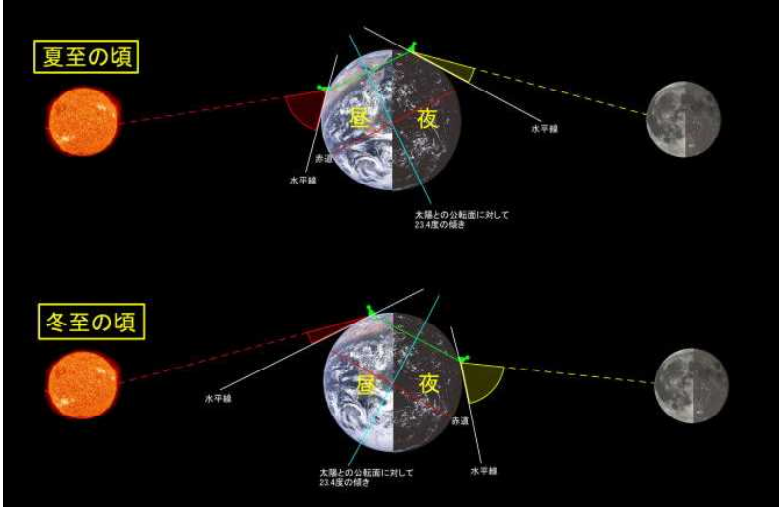
6月大天体ショーが始まる

プラネ新聞

今月(6月)の満月 低つ!!

夏至の頃の太陽の南中高度は高いのに満月は低い!!なぜ?

皆さんは満月の高度について、「今月の満月はやけに高度が低いぞ(高いぞ)」と思ったことはないでしょうか。あるときはほとんど天頂付近を通過してたり、またあるときは南の空かなり低い位置を通過するなどです。でもほとんどの場合「まあ今日の満月は高いなあ、低いなあ」



ぐらいで終わってしまいますよね。でもなぜ変化するのでしょいか。そこで今回はその満月の高度の変化のからくりを探ってみようと思います。緑色の線が北緯35度付近だと思っただけで、観測者です。満月の間は地球を

発行所 岐阜市科学館
〒500-8389
岐阜市本荘3456-41
TEL: 058-272-1333
FAX: 058-272-1303

陽と月が一直線に並んでいるとします。観測者から見て夏至の頃は太陽の南中高度は高くなり、冬至の頃は低くなります。これは地軸が23.4度傾いていることが原因です。それに対して、満月の南中高度は観測者が夜に入ったところから見るので夏至の時は低く、冬至の時は高く、太陽とは逆になります。夏至の頃の満月(6月25日)の日、太陽の南中高度は78.4度、満月の南中高度は28.4度です。ちなみに冬至の頃の満月(12月19日)の日、太陽の南中高度は31.2度、満月の南中高度は80.6度です。



人気のない展示物の紹介「コーナー」月の満ち欠け

さあ、これで満月の高度の変化のからくりがわかりましたね。太陽系規模で外から地球を眺めていると思いがら月を愛でてみてください。

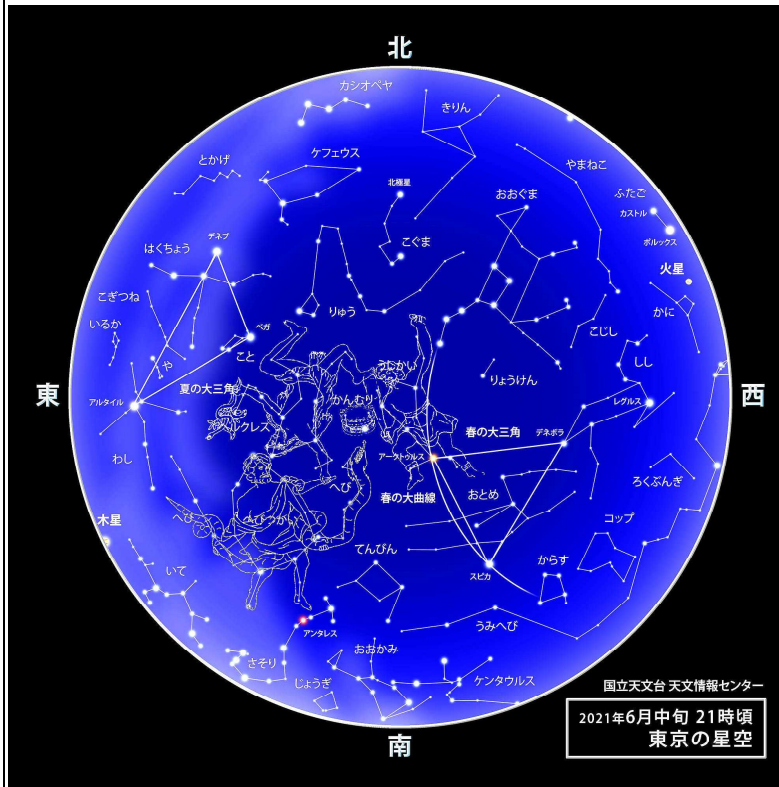
かんむりがオカムリ!

今回は目立たない星座シリーズ第6弾、かんむり座です。星座自体は紀元前300年にはすでに知られており、プロレマイオスの48星座の1つとして由緒ある星座です。

ギリシャ神話では、この冠の持ち主はクレタ島のミノス王の娘アリアドネです。酒神ディオニュソスが彼女に送った冠なのですが、これにはややこしいわけがあります。そこで簡単にお話ししましょう。アテネ王の息子テセウスを見たアリアドネは一目惚れしてしまいました。この時、テセウスに「このままアリアドネと一緒にになると不幸になる」という神

のお告げがあり、彼はやむなくアリアドネを残して姿を消しました。一人になったアリアドネはただただ泣くばかりです。それを見ていた酒神ディオニュソスはそんな彼女を慰め、宝石をかざった冠を送り求愛しました。その後二人は幸せに暮らしたといわれています。

そんな由緒あるかんむり座ですが、アルフェッカという2等星以外は暗い星で構成されているため目立ちません。さらに、その両側にはそれぞれこん棒を振り上げているヘルクレス座、うしかい座といったおっさん星座に挟まれ、その間からはへびににらみをきかされているのです。とっても窮屈そうですね。さっとオカムリだと心配しているところですよ。



国立天文台 天文情報センター
2021年6月中旬 21時頃
東京の星空

